



地域の小学生と桜の苗木を植樹



桜基金より、桜守の方々へ寄付



桜を守るためには、下草の手入れも大切です。地域の小学生と共に、ムラサキハナナの種を撒き、手入れをしています。

毎年開催される、国立市の環境フェスタにも必ず参加し、昨年、一昨年はワンガリー・マータイさんの「もったいない」運動を毎日新聞社の協力を得て展開しました。



環境

国立市は、街の環境や景観を大切にしている地域なので、ボランティア団体「桜守」の方々や子供たちと共に国立のシンボル「大学通り」の緑を守る活動を続けてきました。HAND IN HAND の運動にも連動させ、桜の苗木を寄贈し植樹すると共に、チャリティーコンサートの収益金で桜基金を創設して、緑と環境を守る運動に貢献しています。その他の継続事業として、大学通りにフラワーボックスやベンチを贈呈し、行政や商工会から喜ばれています。



環境フェスタにて、「もったいない」運動